

左京伝統行事
ぐるり旅2014



京都市

- ⑤ 大原上野町おこないお弓 (P.27) ⑫ 鞍馬の火祭 (P.22) ⑲ 鉄仙流白川踊 (P.6)
- ⑥ 大原八朔踊 (P.18) ⑬ 鞍馬山竹伐り会式 (P.5) ⑳ 花脊松上げ (P.7)
- ⑦ 上高野念仏供養踊 (P.11) ⑭ 木瓜大明神の剣鉾 (P.21) ㉑ 広河原松上げ (P.13)
- ⑧ 北白川高盛御供 (P.19) ⑮ 時代祭風俗行列 ㉒ 広河原ヤッサ踊・ヤッサコサイ (P.14)
- ⑨ 木野愛宕神社の烏帽子着 (P.23) ⑯ 修学院題目踊・紅葉音頭 (P.16) ㉓ 松ヶ崎題目踊・さし踊 (P.8)
- ⑩ 久多宮の町松上げ (P.12) ⑰ 真如堂の十夜鉦 (P.25) ㉔ 松ヶ崎妙法送り火 (P.9)
- ⑪ 久多山の神・お弓 (P.26) ⑱ 大文字送り火 (P.9) ㉕ 八瀬赦免地踊り (P.20)

B



春

左京ぐるり旅

5/5

一乗寺八大神社の剣鉾



一乗寺八大神社では、5月5日に勇壮な剣鉾^{けんぼこ}を先駆けに、御輿^{みこし}が街中を練り歩く神幸祭が行われます。

御輿の先を行く剣鉾は、神が渡る道筋を剣と鈴によって祓^{はら}い清め、悪霊^{しず}を鎮めるための祭具です。しなやかにしなる剣先は、神を招く意味で「まねぎ」と呼ばれ、鈴の音は靈魂を鎮める音といわれています。剣鉾の巡行は「鉾差し」と呼ばれ、差し手が腰につけた差袋^{さしぶくろ}に鉾を直立させ、長さ6～7メートル、重さ数十キロの剣鉾を前後や上下に揺らし、鈴を鳴らしながら歩きます。

時間 午後0時30分～ 奉幣式
1時～ 巡行祭
場所 一乗寺八大神社、集会所 等
交通 市バス(5・北8系統)、京都バス(18・56系統)
「一乗寺下り松町」から徒歩7分
叡山電鉄「一乗寺」から徒歩12分
駐車場 あり(有料) ※路上駐車厳禁
連絡先 075-781-9076 (八大神社 社務所)

一口メモ

神社には、柏鉾、菊鉾、龍鉾と称する剣鉾があります。「剣鉾差し」の技能は大変高度で熟練を要し、行列に参加できるまでに4～5年、一人前と認められるまでに10年以上を要します。



6/20

鞍馬山竹伐り会式

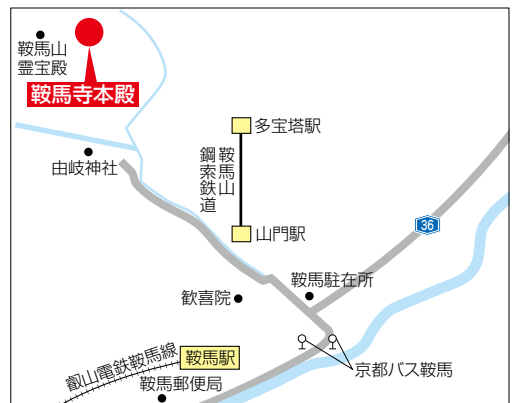


水への感謝と吉事の招来を祈る行事です。平安時代、^{ぶえんしやうにん}峯延上人が修行中に襲ってきた雄の大蛇を法力で倒し、雌の大蛇は鞍馬寺の香水を守護することを誓い、^{あか いご ほうぜんじん}「閼伽井護法善神」として祀られることになったという伝説が起源です。^{おおぞうほうし}大惣法師仲間と呼ばれる僧兵の姿をした男たちが、大蛇に見立てた青竹^かを伐ります。稚児が導師、両座にあいさつをする「七度半の御使」のあと、双方の竹の条件を同じにする「竹ならし」が行われ、大惣法師により勝負伐りが行われます。江戸中期頃から「近江座」と「丹波座」に分かれ、伐る速さを競い、その年の農作物の吉凶を占うようになりました。

時間 午後2時～
 場所 鞍馬寺本殿
 交通 叡山電鉄「鞍馬」下車すぐ
 山門、本殿へはケーブル2分+徒歩10分
 又は徒歩30分
 駐車場 なし
 連絡先 075-741-2003 (鞍馬寺)

一口メモ

鞍馬山といえば、源義経が牛若丸と呼ばれたころに修行をしたことで有名です。「義経記」によると、源義経に兵法を授けたのは、陰陽師の鬼一法眼だといわれています。鞍馬小学校横の石寄大明神の境内にある「鬼一法眼古跡」の石碑は、鬼一法眼の墓所の伝承地を示すものです。



夏

左京ぐるり旅

8/15

鉄仙流白川踊



鉄仙とは、江戸中期頃から流行したとされる盆踊り^{どうねん}で、道念節から派生したといわれています。京都北部地域に広く分布していますが、地域によって踊りや歌に特徴があります。また、室町幕府の末期に、比叡山の奥、横川中堂の学僧「鉄仙」が様々な物語に念仏風の節をつけて、村人に伝えたという説も残っています。この鉄仙流白川踊は、村人たちの盆踊りとして代々継承され、今も毎年、地藏盆に近い日曜日か土曜日に北白川小学校の校庭で、踊り継がれています。

- 時間 午後7時45分～
場所 北白川小学校
交通 市バス(3・5・204系統)
京都バス(18・56系統)「北白川別当町」
京阪バス(56・56A系統)
「別当町」から徒歩5分
駐車場 なし
連絡先 075-791-1987(北白川伝統文化保存会)

一口メモ

鉄扇節と踊りの発祥の起源は、遠く約300年前の江戸中期、元禄文化の華やかなりし頃、京の都の歌舞伎盆興行打ち上げの「都風流盆踊り」や祇園八坂の遊女達を中心に踊られた「八坂の盆踊り」が近郊農村地帯の洛北一乗寺の里に伝わったといわれています。



8/15

花脊松上げ



全国的に分布する柱松行事の一つです。この火伏せの神を祀る愛宕神社への信仰は、お盆の送り火と結びついたり考えられています。当日の昼間、トロギと呼ばれる^{ひのき}丸太が立てられ、地上から約20メートルのカサと呼ばれる先端に、木の枝や枯葉などが詰められます。夜、公民館に^{ほっぴ}法被、鉢巻き姿の男たちが各自の家で作ったアゲマツと呼ばれる手松明を持参して集まります。松上げは、このアゲマツに火を移し、トロギの先端のカサに向けて放り上げるのです。松上げが終了すると、男たちは「伊勢音頭」を歌いながら、公民館へ帰ります。

- 時間 午後8時～春日社神事
午後8時45分～移動(公民館～トロギバ)
- 場所 山村都市交流の森前
- 交通 京都バス(32系統)
「花背交流の森前」下車すぐ
- 駐車場 あり(有料)
- 連絡先 075-746-0215(左京区役所花脊出張所)

一口メモ

花脊松上げが行われる山村都市交流の森は、1,000 haの広大な森林公園で、森の中の遊歩道を散策したり、バードウォッチングや溪流釣りなども楽しめます。園内には宿泊施設やキャンプ場、多目的ホール、木工教室などの施設もあります。緑を眺めながらゆったりできる大浴場(翠峰荘内・土日祝は日帰り入浴可能)がおすすめです。



夏

左京ぐるり旅

8/15
16

松ヶ崎題目踊・さし踊



13世紀末、天台宗派の強かった松ヶ崎に、法華宗が伝えられ、僧実眼^{じつげん}は、自ら住職を務める寺を法華宗に改宗し、松ヶ崎の人たちに法華経のありがたさを説きました。そして、1306年、村人たちが一人残らず改宗したのを見た実眼は、歓喜のあまり飛びはねて自ら太鼓を打ち鳴らし、南無妙法蓮華経と音頭を取り始めたと伝わっています。居合わせた村人たちもお題目を唱え、日本最古の盆踊りといわれる「松ヶ崎題目踊」が始まりました。男女とも背中に妙法と染め抜かれた浴衣、男性は角帯、腰に手拭い、女性は三幅前垂れに赤たすきの衣装で、右手に扇子を持ち、題目音頭に合わせて踊ります。さし踊は、楽器を用いず、男性の音頭取り衆の音頭に合わせ、やぐらの周りを輪になって踊ります。

- 時間 8/15 午後8時～
8/16 午後9時10分頃～
- 場所 涌泉寺
- 交通 市バス(65・北8系統)、京都バス(56系統)
「松ヶ崎海尻町」から徒歩8分
地下鉄「松ヶ崎」から徒歩10分
- 駐車場 なし
- 連絡先 なし

一口メモ

松ヶ崎は、紀貫之が和歌に詠んだこともある古くからの名所です。「源氏物語」の夕霧の巻に「殊に深き道ならねど、松ヶ崎の小山の色なども、秋のけしきつきて、都に二なくと尽くしたる家るには、なほあわれも、興も、まさりてぞ見ゆるや」と松ヶ崎が登場します。





時 間 午後8時～

一口メモ

丸い盆に水を入れ、大文字の「大」の字を映して飲むと、中風にならないといわれています。また自分の名前と病気を記した護摩木を火床で焚くと病気が治るとか、消炭を家の門につるしておくとか、疫病よけになるともいわれています。

五山送り火の一つで、如意ヶ嶽で行われます。送り火は元来、再びあの世に帰る先祖の霊を送るお盆の行事の一つであり、その始まりは、仏教が庶民に広く浸透した室町時代以降であると考えられています。人々の願いが込められた護摩木が、熱く火の粉を散らしながら燃え盛り、「大」の文字が闇夜に浮かび上がります。先祖の霊を送り、家族の幸せを願う送り火は、また夏の終わりを告げる炎でもあります。

8/16

大文字送り火



時 間 午後8時10分～

一口メモ

松ヶ崎妙法送り火は、午後8時10分に西山と東山が同時に点火されますが、二山の間に別の山があるのでお互いを見ることができません。そのため二山が見える南側のビルの屋上でライトを点灯して合図を送っています。

五山送り火の一つで、松ヶ崎西山(万燈籠山)に「妙」、松ヶ崎東山(大黒天山)に「法」の字が点火されます。「妙」は1306年、地元の歡喜寺が日像の教えによって天台宗から法華宗に改宗した際、日像が西山に妙の字を書いたと伝えられています。そして「法」は、妙泉寺の末寺、下鴨大妙寺の僧日良が、江戸時代初期に東山に書いたことが始まりとされています。点火が始まると、妙の西山では読経が行われます。火床は妙が103基、法が63基。お題目の二文字が夜空を焦がします。

8/16

松ヶ崎妙法送り火

夏

左京ぐるり旅

8/16

市原ハモハ踊・鉄扇



明治時代，近くの山で送り火が点火された後に踊られていた盆踊りで，ハモハ踊という比較的古い念仏踊りと，鉄扇という近世に流行した盆踊りで構成されています。「ハモハ」とは，踊りの際に歌われる「ナムアミダブツ」が訛った「ハモハムアミダー」という文句に由来しており，ハモハ踊りが先祖供養に由来することがわかります。踊りは，全体的に素朴でおおらかで，締め太鼓や鉦のリズムに合わせて踊ります。その後に踊る鉄扇は，楽器は使わず，口説き調の音頭に合わせて踊ります。

- 時間 午後8時～
 場所 川島織物セルコン(株)正門前駐車場
 交通 京都バス(32・34・35・40・50・52系統)
 「小町寺」から徒歩4分
 叡山電車「市原」から徒歩6分
 駐車場 なし
 ※行事当日は，一部通行止め
 連絡先 075-741-2668(市原ハモハ八尾講中)

一口メモ

市原では，明治時代の半ばまでは，8月16日にひらがなの「い」の字の送り火がありました。市原の北方にある向山の中腹の2つの尾根に縦に「い」と書かれていたそうです。



8/19

上高野念仏供養踊

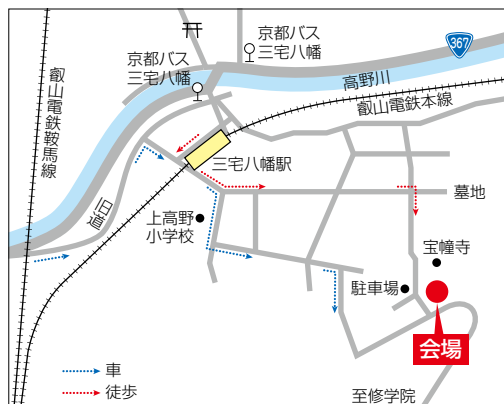


900年余り里人によって踊り続けられていましたが、大正末期に途絶えてしまいました。しかし、昭和63年、当時の様子を知る古老たちによって復活し、現在は8月19日の夜に行われています。踊り場の中央に施餓鬼台せがきだいを設置し、この1年間に地域で亡くなられた方々を偲びます。住職による回向えこうの後、踊りの開始を告げる口上こうじょうが述べられ、囃し方による太鼓、鉦に合わせ、念仏を唱えながら、ゆっくりと施餓鬼台を中心に円を描くように踊ります。女性たちは、揃いの浴衣みはばに赤の褌たすきに白足袋、赤い緒の草履を履き、右手に団扇を持って踊ります。

時間 午後8時～
 場所 宝幢寺
 交通 京都バス(10・16・17・18・19系統)
 「三宅八幡」から徒歩10分
 叡山電車「三宅八幡」から徒歩8分
 駐車場 あり(無料・30台分)
 連絡先 075-701-7036(上高野念仏供養踊保存会)

一口メモ

宝幢寺ほうどうじには、上高野の崇道神社の裏山で発見された小野毛人(小野妹子の子)の墓誌が安置されていました。現在、この墓誌は国宝として京都国立博物館に所蔵されており、宝幢寺には写しが保管されています。



夏

左京ぐるり旅

8/23

久多宮の町松上げ



防火の神を祀る愛宕山へ火を捧げる柱松の行事です。地元では「チャチャンコ」と呼ばれており、地蔵盆の行事として行われています。いつ頃から行われるようになったか不明ですが、江戸時代の文献には既に記述があり、古くから残る風習です。垂直に立てられた「トロギ」と呼ばれる柱松の先に、枝葉など点火用資材を詰めた逆三角形の籠が取り付けられ、「アゲマツ」と呼ばれる小さな^{たいまつ}松明を投げ入れます。火が点り、「トロギ」が燃え上がると、「トロギ」を倒します。

時間 午後8時～
場所 久多宮の町
交通 左京区役所(国道367号経由)から
車で約1時間
駐車場 あり(無料)
連絡先 090-7344-5361(久多宮の町松上げ保存会)



一口メモ

燈籠木(トロギ)と呼ばれる柱松の高さは現在15メートルほどですが、昔は20メートル近くもある大きな柱松を使っていたそうです。

8/24

広河原松上げ



毎年8月24日に行われ、^{あたご}愛宕大明神に献燈し五穀豊穰・無病息災を祈念する神事です。「^{とろろぎ}燈籠木」「^{じまつ}地松」「^{まつ}放り上げ松」という3種類の松明によって構成されています。夜8時30分、松場に立てられた1,200本の地松に火が灯され、あたり一面幻想的な空間の中を、男衆が火のついた放り上げ松を高さ20mの燈籠木の先についた大笠に目がけて投げ上げる壮大な火の祭りです。大笠に放たれた火が大松明になった頃に燈籠木は倒され、山里の短い夏が終わりを告げます。

時間 午後8時30分～ 松上げ開始
 場所 広河原下之町 松場
 交通 京都バス(32系統)
 「下の町」下車すぐ
 駐車場 あり(無料)
 連絡先 075-746-0215(左京区役所花脊出張所)



一口メモ

広河原松上げの特徴の1つに「つっこみ」があります。2方向から長い丸太をかかえた男衆が、倒れた大笠の炎に向かって突っ込み、炎をかきあげます。漆黒の夜空に大きな炎が舞い上がり、松上げは最高潮を迎えます。

夏

左京ぐるり旅

8/24

広河原ヤッサ踊・ヤッサコサイ



松場で燈籠木が倒れる頃、観音堂では観音講が終わり続いて浴衣にかすりの三幅前掛け姿の広河原の女衆によるヤッサ踊りが始まります。この踊りは、江戸時代に良家の娘が和尚に恋心を抱くが、仏に仕える和尚を口説き落とすことはできず、この踊りで乙女心を癒したと伝えられています。ヤッサ踊りが終わる頃になると、松上げを終えた男衆が観音堂に引き上げ、老若男女一緒に踊るのがヤッサコサイ踊りです。その昔は、夜明け近くまで弾んだものだ、と村の古老は語ります。

時間 午後9時30分～
 場所 広河原下之町 観音堂
 交通 京都バス(32系統)
 「下の町」から徒歩2分
 駐車場 あり(無料)
 連絡先 075-746-0215(左京区役所花脊出張所)



一口メモ

ヤッサ踊りは、音頭取りの息つぎの後、踊り子が一斉に「イヤ ソレサー ヨイトコサー」とはやしなから、ちらっと周囲の男衆に無言の誘いをするという日本でもめずらしい踊りである。ヤッサコサイ踊りは、1人が一節出せば相手がそれに応え、踊り子全員ではやし立てるといふゆる掛け合い音頭になっている。手拍子と下駄の響きが何とも言えない実に活気のある踊りとなっている。

8/24

久多花笠踊

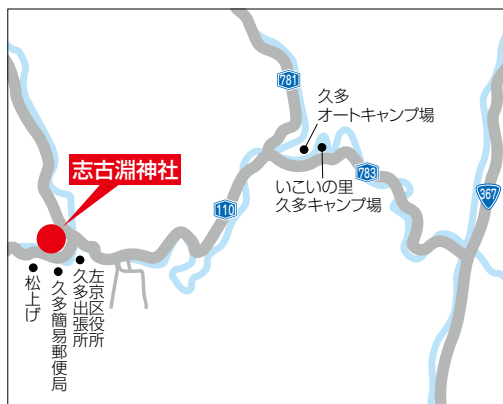


室町時代に流行した風流踊の伝統を残すと伝えられる奉納踊です。花笠は手作りで、かつては各家に1つ、200種類あったと伝えられていますが、現在は5箇所^{はなやど}の花宿で作られた十数基が奉納されています。8月24日の午後8時、花笠を持った男性が、上の宮神社に集まり、祝詞をあげ、花笠踊^{のりと}を奉納します。奉納の後、大川神社を経て、志古淵神社^{しこぶち}の神前に花笠を奉納したあと、再び花笠踊りを奉納します。平成9年には、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

時間 午後8時～
 場所 志古淵神社
 交通 左京区役所(国道367号経由)から
 車で約1時間
 駐車場 あり(無料)
 連絡先 075-748-2020(久多出張所)

一口メモ

久多花笠踊で使われる花笠は、地元の男性たちによる手作りで、あやめ・朝顔・ダリア・ばら等を和紙で作ります。菊だけは特別に「ハシマメ」と呼ばれる植物の茎の芯を用いて作ります。中世に流行した風流の灯籠踊りの面影を残した特色ある踊りを見ることができます。



8/27

修学院題目踊・紅葉音頭



現在、踊りは鷲森神社の御旅所でもある七町会館前の広場で行われています。
 檜やぐらに立てられた青竹の先には、観音経かんのんきょうが書かれた切子燈籠きりこどうろうが一灯吊るされます。
 音頭取りが歌う「南無妙法蓮華経」という題目に節をつけた歌に合わせて踊る
 題目踊は、中世の念仏踊りの面影を残しています。題目踊のあとに踊る紅葉音頭
 は、修学院離宮を中心としたことから、別名御所音頭とも言われ、紅葉の名所に
 因んでその名称が付けられたと考えられています。

時間 午後7時30分～
 場所 七町会館前
 交通 市バス(5・31・65系統)「修学院離宮道」
 叡山電車「修学院」から徒歩10分
 駐車場 あり(有料・8台分)、※路上駐車厳禁
 連絡先 075-791-8436(紅葉音頭保存会)



一口メモ

修学院の雲母坂きんらざかは、修学院離宮から音羽川沿いに比叡山延暦寺へと通じる道です。途中の土砂が雲母を含むためとも、市街地から眺めると雲が湧き上がるように見えるからともいわれています。

8/30

大原八朔踊



大原の8つの町の総氏神である江文神社は、風、水、火、そして豊饒と生産の神々が祀られています。夜7時頃、人々は町名を書いた高張提灯を掲げ、出発の音頭を歌いながら江文神社へと向かいます。江文神社の石段下にそれぞれの町の提灯を掲げて集結し、一同が伊勢音頭を歌いながら、石段を上ります。境内へは「寄せ歌」であるシヨンガイナを歌いながら入場します。「道念」と呼ばれる音頭は切れ間なく引き継がれ、なだらかな踊りが繰り広げられます。豊作への感謝であると同時に、かつては男女の出会いの場でもあったという八朔踊は今も地元の人たちによって踊り継がれています。

時間 午後8時～
 場所 江文神社
 交通 京都バス(10・16・17・18・19系統)
 「戸寺」から徒歩17分
 駐車場 なし
 連絡先 075-744-2148(大原観光保勝会)



一口メモ

江文神社の近くにある江文峠は、東海自然歩道として整備されています。壇ノ浦の戦い(1185年)の後、後白河上皇は旧江文峠を越えて寂光院に閑居していた建礼門院を訪ねたといわれています。

夏

左京ぐるり旅

8/31

一乗寺鉄扇



八大神社の八朔祭で、神事、お千度詣りのあと、一乗寺鉄扇の音頭と踊りが奉納されます。中央の檣に乗った男性の音頭取りの歌に合わせ、その周りを女性の踊り子たちが踊ります。踊りの形態は、「雅楽の舞」の所作から取り入れられたとされており、静かで優雅な形態です。鉄扇節は、とても地味で、笛や太鼓や鉦の鳴り物は一切使わず、合いの手に「ドッコイ」「ソレ」の掛け声が入るだけです。歌詞は格調高く、口説の長文で韻を整え、縁語、掛け言葉などが修辭的に作られています。

時間 午後9時～
 場所 一乗寺八大神社
 交通 市バス(5・北8系統)、京都バス(18・56系統)
 「一乗寺下り松」から徒歩7分
 叡山電鉄「一乗寺」から徒歩12分
 駐車場 あり(有料) ※路上駐車厳禁
 連絡先 075-781-9076 (八大神社社務所)



一口メモ

鉄扇節と踊りの発祥の起源は、遠く約300年前の江戸中期、元禄文化の華やかなりし頃、京の都の歌舞伎盆興行打ち上げの「都風流盆踊り」や祇園八坂の遊女達を中心に踊られた「八坂の盆踊り」が近郊農村地帯の洛北一乗寺の里に伝わったといわれています。

10/5

北白川高盛御供



京都から近江坂本へと通じる街道沿いに建つ北白川天神宮。白川村の産土うぶすながみすくなひこののみことたかもりごく神・少彦名命を祀っています。北白川高盛御供は、この北白川天神宮に伝わる、「高盛」という神饌しんせんを供える神事です。味噌をつなぎにして、湯がいた小芋を根気よく高く積み上げ、大根やすめるめも積み上げ、サツマイモで飾りを作りつけ、魚類も並べます。白い御飯を型にはめ込み、縄で縛った盛相もっそうなどの神饌をうやうやく頭上に戴き、天神宮まで行列して神前に供えます。

- 時間 午前7時～ 天神宮万世橋前整列
8時～ 献遷の儀式
- 場所 北白川天満宮
- 交通 市バス(5・204系統)「北白川校前」から徒歩7分
市バス(5・17・32・100・102・203・204系統)
「銀閣寺道」から徒歩10分
- 駐車場 なし
- 連絡先 075-791-1987(北白川伝統文化保存会)

一口メモ

北白川天神宮は京都有数の古さを誇り、平安遷都以前の創建といわれています。ここでは、古くからの神饌の姿を伝える「高盛御供」以外にも「御弓神事」や「白川花行列」なども行われます。



秋

左京ぐるり旅

10/12

八瀬赦免地踊り



江戸時代中期より約 300 年もの間、八瀬に伝承されてきた祭りです。かつて後醍醐天皇の叡山御潜幸を警護した功績により、八瀬の村人は年貢等免除の御綸旨を下賜されました。その後、1707 年、比叡山との山門結界争いが起こった際、村人の権利を守る裁定を下した時の老中、秋元但馬守への感謝を込めて奉納されてきました。祭の主役は細密な透かし彫りを施した切子灯笼と、御所染めの刺繍を施した衣装をまとい、美しく化粧をした灯笼着と呼ばれる 13 歳から 14 歳の少年たち。彼らがこの灯笼を頭上にいただいて、神社へ踊りを奉納します。

- 時間 午後 8 時～ 出張所前から行列出発
午後 8 時 30 分～ 奉納
- 場所 秋元神社
- 交通 京都バス (10・16・17・18・19 系統)
「ふるさと前」から徒歩 3 分
- 駐車場 あり (無料)
- 連絡先 075-724-0255 (八瀬郷土文化保存会)



一口メモ

その昔、八瀬を矢筈と書くこともあったそうです。壬申の乱の時、大海入皇子 (後の天武天皇) が八瀬で背中
の矢傷を癒したことに由来するといわれています。矢傷
を癒すためにたてた蒸し風呂が「八瀬の窯風呂」の始まり
だとい言い伝えもあります。

10/12

木瓜大明神
劍鋒

吉田神社には数多くの摂社・末社がありますが、そのひとつ「今宮社」は、地域の産土神である木瓜大明神を祀ります。吉田神社で、毎年秋に行われる「今宮社神幸祭」において、劍鋒は神輿の先導を務め、稚児や武者行列が供奉し、町内を巡行します。

時間 午前11時～
 場所 吉田神社など
 交通 市バス(31,65,201,206系統)「京大正門前」
 から徒歩8分
 駐車場 なし
 連絡先 075-771-3788(吉田劍鋒保存会)

一口メモ

吉田神社の二の鳥居横にある今宮社は、吉田地域の氏神として知られる「木瓜大明神」を祭っています。今宮社は当初吉田神社の境内にありましたが、文化13(1816)年に現在の場所に移転合祀されました。



秋

左京ぐるり旅

10/22

鞍馬の火祭



「^{じんじ}神事にまいらっしゃれ」という^{じんじ}神事ぶれを合図に家々の^{かがりび}篝火に火が灯されます。小さな^{たいまつ}松明を持つ子どもたちを先陣に、徐々に大きめの松明が続き、最後には大人たちが担ぐ100キロもある大松明が繰り出します。子どもも大人も「サイレイヤ、サイリョウ」の掛け声とともに松明をかかげて歩きます。舞い散る火の粉、きらめく^{けんぼこ}剣鉾、太鼓の響きが加わると、街道は熱気に包まれ、祭りはクライマックスを迎えます。この火祭は、940年、由岐大明神が鞍馬の地へ移された際に、鞍馬の人たちが松明と^{かがりび}篝火で迎えたのが始まりと伝えられています。

時間 午後6時～
場所 由岐神社
交通 京都バス(32系統)「鞍馬」
叡山電鉄「鞍馬」から徒歩10分
駐車場 なし
連絡先 075-741-4511
(鞍馬の火祭テレフォンサービス
9月1日～10月31日まで)

一口メモ

志賀直哉の小説『暗夜行路』には、鞍馬火祭が描かれています。「日の暮れ、京都を出て北へ北へ、幾らかの登りの道を三里ほど行くと、遠くの山の狭がほんのり明るく、その辺一带薄く烟の立ちこめているのが眺められた。」(『暗夜行路』から引用)



10/23

木野愛宕神社の烏帽子着



10月23日の木野愛宕神社祭礼の日に行われる神事のあと、人びとが見守る中で、大人の仲間入りを果たす少年たちの元服式である烏帽子着えぼしぎが行われます。編んだ藁で赤飯を包む「ゆり膳」、柿・栗けいとう・鶏頭・菊などで美しく盛り込まれる「花膳」、季節の野菜を飾る一の膳、二の膳、合計31ものお供えが並びます。烏帽子着は、16歳になった男子がかみしも、袴の正装で、宮座の杯事さかずきことの響応きょうおうの役を勤めます。大人たち一人ずつに、かわらけさかずきの盃さかなを配り、お酒を酌します。答礼として、大人たちは声を合わせて祝いの謡曲を歌います。

時間 午後8時～
 場所 木野愛宕神社
 交通 京都バス(40・50・52系統)「北稜高校前」
 から徒歩3分
 叡山電鉄「木野」から徒歩5分
 駐車場 なし
 連絡先 075-791-6426
 (木野愛宕神社の烏帽子着保存会)

一口メモ

木野は、嵯峨天龍寺の近くに住み、朝廷や幕府に土器かわらけを納めていた土器師が移住したことに始まると伝えられており、土器村とも呼ばれていました。木野愛宕神社は、愛宕の野々宮神社から勧請したといわれています。



秋

左京ぐるり旅

10/25

石座例大祭 (石座火祭)



かつての岩倉村6箇町の氏子から成る宮座という祭祀組織さいしによる行事です。夜中の2時に、松明たいまつ、劍鉾けんぼこなどを手にそれぞれの町内から参加者が石座神社へ集まり、献饌けんぜん、神事のあと、宮座の代表が火をもらいに神前に進み出ます。午前3時、長さ8メートル、胴回り約7メートルの雄雌の大蛇に見立てた2基の大松明だいたいまつが点火され、赤々と燃え上がります。大松明の炎が弱った5時頃、子ども神輿と大人神輿が神社を出発します。石段を降り、神輿は各町を巡行します。

時間 午前2時～
場所 石座神社
交通 京都バス(21・24系統)
「岩倉実相院」から徒歩3分
駐車場 なし
連絡先 075-791-0056(石座神社奉賛会)

一口メモ

岩倉やますみにある山住神社には神殿がなく、背後の小山を神南備山かみなひ、そこに埋もれた巨石を「盤座いひくら」として祭っています。盤座とは、神が宿ったり、降臨したりする巨石や大木のことを指します。





11/15

真如堂の十夜鉦

真如堂しんにょどうの十夜鉦じゅうやがねとは、毎年11月5日より15日までの間、天台宗の鈴聲山ねいしょうざん真正極楽寺の本堂で行われますじゅうにちじゅうやべつじねんぶつえ（十夜法要）に伴うそうぼんねんぶつ双盤念仏です。独特の節で唱える念仏にあわせ、一尺二寸の吊り鉦鼓を打ちます。僧侶による念仏会から民俗的色彩の強い行事へと変容する歴史的過程が明らかで、鉦講によって非常に多くの曲と洗練された演奏技術を現在に伝えており貴重とされています。

- 時間 午後2時～（結願法要）、
午後5時～（ご閉帳法要）
- 場所 真如堂（真正極楽寺）
- 交通 市バス（5・17・100・102・203・204 系統等）
「錦林車庫前」または「真如堂前」から徒歩8分
- 駐車場 なし
- 連絡先 075-771-0915（真正極楽寺）

一口メモ

双盤念仏は、十夜法要が基盤となって生じました。十夜法要は15世紀に伊勢貞国が真如堂で行ったのが最初といわれ、法要期間中は伊勢貞国像が脇壇前に祀られます。伝承されている曲は17種類で、そのうち8曲は念仏が伴い、他の9曲は素鉦と呼ばれ、打ち方の妙技が披露されます。



冬

左京ぐるり旅

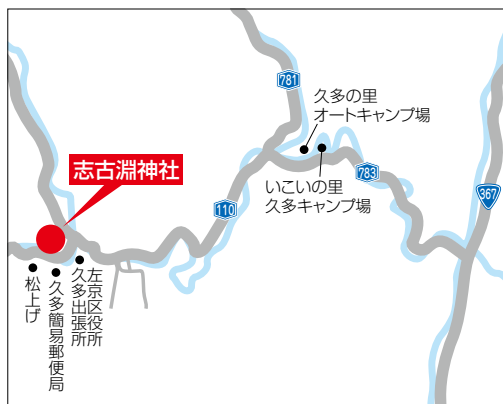
1/3

久多山の神・お弓



志古淵神社境内にある山の神ほこらの祠の祭です。代々、志古淵神社の氏子たちで形成される「宮座」によって傳承されています。「弓木」と呼ばれるムラサキシキブの木を削って弓と矢を作り、「神殿」と呼ばれる2人が「エビ」と呼ばれる藁草履を履き、その年の恵方の空に向かって、それぞれ1本ずつ矢を放ち、その後、的に向かってもう1本ずつ矢を射ます。由来は定かではありませんが、古文書によれば、18世紀前半には既に行われていたようです。

時間 午前10時～
場所 志古淵神社
交通 左京区役所(国道367号経由)から
車で約1時間
駐車場 なし
連絡先 075-748-2020(久多出張所)



一口メモ

京都市の最北端に位置する久多の歴史は古く、既に平安時代からあり、江戸時代は近江の朽木藩の所領となっていました。左京区には昭和24年に編入されましたが滋賀県との縁が深い地域で、郵便番号は今でも滋賀県の番号が使われています。

1/12

大原上野町おこない・お弓



成人式の日、古くから伝わる正月行事「おこない」と「お弓」が町の氏子の若者たちによって行われます。「おこない」は、浄楽堂じょうらくどうにおいて行う行事で、一和尚いちぼんじょうが、お碗に盛られたサイコロ状の大根を転がし、この所作を全員が繰り返すという「サイコロ転がし」を行います。その後、あらかじめ作りつけておいた篠竹しのたけの的に向かって、一和尚、二和尚以下2人ずつが組になり、手作りの弓と矢で5本ずつ射る「お弓」が行われます。これは成人式の意味があったのではないかと考えられています。元禄時代の記録にも既に記載されているこの行事は、近世以降の貴重な民間伝承として、地域を支える青年たちに受け継がれています。

時間 午後（時間は年度によって変動あり）
 場所 浄楽堂
 交通 京都バス（10・16・17・18・19系統）
 「野村別れ」から徒歩5分
 駐車場 なし
 連絡先 なし

一口メモ

大原上野町には、御香水といわれる泉が湧いています。旧暦の6月16日に湧く水には諸病に効果があるとされており、御香水お参りの日（7月の第3週又は第4週の土日）には、多くの人が訪れるそうです。



左京伝統行事ぐるり旅2014

発行：平成26年3月

製作：京都市左京区役所地域力推進室

電話：075-702-1021

FAX：075-702-1301

京都市印刷物 第253246号

